

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】 アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	宇都宮大学オプトバイオシンポジウム2017 (2017年12月13日、宇都宮大学 峰キャンパス 大学会館2階多目的ホール・談話室)
演題名	EgcrB-suppressed <i>Euglena gracilis</i> is imperceptive to the light direction
発表者	[1] <u>Shota Kato</u> , [2] Kazunari Ozasa, [1] <u>Tomoko Shinomura</u> [1] Teikyo University, [2] RIKEN
内容	<p>緑藻クラミドモナスでは、葉緑体に形成されるカロテノイドの小胞（眼点）が光走性の正負決定において重要な役割を果たしていることが報告されていますが、ユーグレナは独自の進化を遂げた微細藻類で、眼点がどのような働きをしているのかは、まだ明らかになっていません。本研究では、ユーグレナのカロテノイド合成系のフィトエン合成酵素遺伝子(EgcrB)の発現を抑制すると、細胞は光の強度変化を認識するが、光走性を失うことを明らかにして報告しました。</p> <p>本研究は博士研究員に加藤翔太研究員を中心に、理化学研究所の研究者との共同研究により遂行しました。本研究の一部は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、および科学研究費補助金(基盤研究C)の支援を受けています。</p>
関連画像	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>